

「村落社会研究」第六集の刊行

本会年報「村落社会研究」第六集が、近く刊行のはこびとなりました。今号は以下にごらんのように力のこもった九本の論文を収録し、四〇〇ページをこえる大部のものになりました。したがって定価二四〇〇円、会員頒価二〇〇〇円と、例年よりもいささか高価になりましたが、近畿北部農村に関する特集論文と公募による論文という充実した構成ですので、御満足いただけるものと信じます。御希望の方は、稿書房（振替東京八七八二番）へ御申込下さい。

内 容

株講の成立と変遷——近畿北部の同族に関する

試論

近畿北部村落における株とマキ

祭祀組織と村落構造——岡山県勝田郡勝田町楮の場合

一六世紀墓碑初現形態と村落構造の地域差

篠山藩における村方騒動

水田農村における農業生産組織の展開
 沿岸漁業村落の階級（階層）構造と漁民層
 独占資本の形成と小農的過剰人口
 道北農村における農業と農民の問題——名寄市
 智南地域の事例から——

研究動向

史学・経済史学における村落研究

経済学における村落研究

社会学における村落研究

法学における村落研究

安孫子 麟

高山 隆三

後藤 和夫

及川 伸

余田 博通

松本 通晴

米村 昭二

竹田 藤洲

岡 光夫

高橋 明善

後藤 和夫

東 敏雄

中屋 紀子

中川 順子